

- 展示解説員が博物館の見どころを紹介します -

## オオバヤドリギ

しょうようじゅりん

1階自然史展示室の照葉樹林ジオラマを見ていると、おもしろい発見がたくさんあります。その中で今回はハナガガシに寄生している「オオバヤドリギ」について紹介します。ジオラマのハナガガシを眺めていると、枝の根元が膨らんでいて、その葉がハナガガシと違うものがあります。これがオオバヤドリギです。

オオバヤドリギは常緑低木で、サクラ、スギ、ケヤキ、シイなどの幹に寄生し、自ら光合成を行う半寄生植物です。日本では沖縄～関東南部以南に分布しています。茎はつる性で葉は固く丸みを帯びて、光沢があります。鳥や動物たちにより果実が運ばれ、繁殖します。

この博物館の民家園の中にある「椎葉の民家」入り口でも見つけることができます。是非、自然史展示室見学後、散策してみてください。



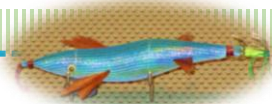
オオバヤドリギの実



オオバヤドリギの花



## 漁師と魚の知恵比べ



イカエギ

民俗展示室の「海にくらす」のコーナーには、イカ釣り用具のイカエギと呼ばれる擬餌針があります。製作工程が分かるように型から実物資料までを紹介し、釣り方法が分かるようにシナイ（イカ釣り竿）とイカの模型をセットで展示しています。



イカエギ

イカ釣りはかつて薩摩藩の高級武士の遊漁として行われ、西郷隆盛もイカエギを作ったという記録があります。当時は木材地肌を焼いて作る焼き餌木でしたが、近年は塗装を施したものや、布を何層にも巻いて作ったものが宮崎県の漁師たちによって広く使われています。

海にくらす人々は様々な知恵と技術を駆使し、ほかにもたくさんの工夫を施した道具を生み出しました。漁師と魚の知恵比べ、是非展示室にてご覧ください。

今年50周年を迎えた「みやはく」は昭和46年（1971）の開館当時、総合文化施設として今とは違った施設がありました。では、その当時なかった施設は次のうちどれでしょう？



①美術展示室

②県民文化ホール

③古代生活体験館

